

国際貢献を含む国際社会における我が国の役割についての学習は、知識として理解することはできたとしても、「日本として何をすべきか」について自分事として考えることが難しい内容でもある。そこで、まず「日本人として何ができるのか」を具体的に考えさせた上で、「国際社会における日本の役割は、どうあるべきと考えるのか」と自分なりの考えを深めさせた実践を紹介する。

POINT 1 umbs パフォーマンス課題

「もし、……だったら？」という仮の設定で考えさせることで、具体的に自分事にする

自分が国連職員になったと仮定し、取り組んでいることを中学生に紹介しよう！

国連児童基金、世界保健機関、国連女性開発基金……。国際連合には様々な専門機関があり、国際社会における問題の解決やSDGsの達成などに取り組んでいる。それらを調べ、その職員になりきって伝えるパフォーマンス課題「自分が国連職員になったと仮定し、取り組んでいることを紹介しよう！」を設定した。「中学生に紹介する」という出口を設定することで、中学生がわかるような説明文や言葉選びの工夫、中学生にとって少しでも自分事として捉えられるような視点を意識させ、生徒一人一人の理解を深め、国際社会における諸問題に対して主体的に関わろうとする態度の育成につなげた。

【パフォーマンス課題】

自分が国連職員になったと仮定し、取り組んでいることを中学生に紹介しよう！

- (1)自分が解決したいと考える問題を選択する。
- (2)実際にその問題の解決に向けて取り組む国際連合の機関とその取組・仕事内容を調べる。
- (3)自分がその機関の職員と仮定して、大変だと思うこと、思いなどを想像し、プレゼンテーションとしてまとめる。
※途中、国連職員によるオンライン授業を実施（POINT2）
- (4)母校の中学生に向け、3分で発表をする。

生徒のプレゼン（例）

私は、国連人間居住計画（UN-Habitat）で勤務しています。持続可能な都市の整備を促進することが主な仕事です。大変だと思うことは、その都市にあった環境開発です。

ループリック

A	国際社会の課題を見だし、平和実現のために自分にできることを主体的かつ具体的に追究している。
B	国際社会の課題を見だし、平和実現のために自分にできることを主体的に追究している。
C	Bを満たしていない。



実践者に聞く！エピソード紹介

●「なりきって考えさせる」ことで、「貢献したい」という態度を育てる

これまでの授業での生徒たちの感想は「私たちの日本は、とても平和な国。世界に起きている紛争などの問題は、かわいそうで、何とかしてあげたいと思う。平和になったらいいと思います。」と、どこか他人事になってしまっていることが多かったようにふりかえります。

本実践では、「なりきって考える・伝える」というパフォーマンス課題によって、「今、世界はこういう状況で、私たちができることはこういうことだ」と、世界の様々な問題を自分事として捉え、生徒自身が解決に向けて訴えていく姿が見られました。単元終了後も、世界のニュースを見て、コメンテーターのように自分の考えを述べる生徒の姿が見られるなど、「世の中のことは、自分と関係がある、貢献したい」という意欲を育てることができたと思います。

POINT 2 umbs

外部連携ーオンラインで専門家の話を聞く

国際的課題に貢献する国連職員に聞く

国際平和に貢献する仕事のリアルと思いを聞くオンライン授業

パフォーマンス課題の取組の中で、実際に国連職員としてイラク共和国に勤務している人とオンラインでつなぎ、仕事の具体的な内容や大変さ、役割に対する思いを聞く機会を設けた。生徒からは、「日本人としての誇りを感じた」「日本人でも、一人でもできることがあることがわかった」といった感想が聞かれ、各自が作成しているプレゼンテーションの内容の見直しやさらなる充実を図ることにつながった。



●事前調整・打ち合わせ

時差がある中での調整となり、また、国連職員としての勤務時間外に、打ち合わせ等の対応をお願いすることになる。そこで、基本的に調整はメールで行うこととし、以下の2回についてはオンラインで打ち合わせることとした。

【打ち合わせ1回目】

- ・オンライン実施に向けた海外からの接続確認
- ・単元の目標、本時のねらい、本時の展開案、伝えてほしいことの確認

【打ち合わせ2回目】

- ・授業展開や講話内容の確認
- ・現在の学習の進捗、生徒の学びの様子、パフォーマンス課題案の共有

●「伝えてほしいこと」として依頼した内容

- ・国連職員としての日々の活動内容、実際の活動の様子、働く上で感じている**大変さや課題、日本にいる人たちに伝えたいこと**
- ・**なぜその機関を選じたのか、仕事のやりがいや誇り**と感じていること



実践者に聞く！エピソード紹介

●本当に取り組んでいる人の話が、「自分にもできる、していきたい」につながる

生徒たちは、国連職員としての「取り組む大変さ、思い」などについて、自分なりに調べたりイメージしたりしてパフォーマンス課題に取り組んでいましたが、実際に国連職員として働く方からの話は大きな衝撃だったようです。銃器の音が聞こえ、命の危険を感じながら仕事をしている様子を聞き、想像していたよりはるかに大変な状況にあることを知るとともに、それを乗り越えて、世界のために活躍している日本人がいる、ということがわかり、多くの生徒の「自分もできることをしていきたい」という気持ちを喚起することにつながりました。国連職員になったと仮定したパフォーマンス課題と、オンラインで実際に取り組む人の話を聞くという相乗効果によって、生徒に「国際社会のために自分は何ができるか」を深く考えさせることにつながったと考えています。

『よりよい社会の形成に参画する日本、そして私の役割とは何か？』

単元目標

- 【知識及び技能】
国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛に関わる現実社会の事柄や課題について知り、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について理解する。
- 【思考力、判断力、表現力等】
国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について、政治の側面を関連させ、国際社会が抱える様々な課題解決に向けて多面的・多角的に考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
- 【学びに向かう力、人間性等】
よりよい国際社会の実現を視野に、国際社会が抱える様々な課題に対して主体的に解決しようとする態度を養うとともに、持続可能な国際社会の形成に向け、協力し合い継続的に努力することの大切さについての自覚などを深める。

単元計画

単元を貫く問いとして、『よりよい社会の形成に参画する日本、そして私の役割とは何か？』を設定。学習したことを踏まえ、自分が国連職員になったと仮定して、国際社会が抱える問題の解決を考えるパフォーマンス課題に取り組む。

時数	学習内容
10	●単元を貫く問いの提示 『よりよい社会の形成に参画する日本、そして私の役割とは何か？』 ①領土問題は平和的に解決できるだろうか？ ・領土（領海、領空を含む。）竹島、北方領土、尖閣諸島 ・拉致問題 ・国家主権、国際社会の仕組みと国際法 ②国連の最大の目標は何か？ ・国際社会の平和と安全維持のための国連の取組 ③平和主義と世界平和の貢献をどう実現するか？ ・我が国の防衛に関する基本的な事柄 ・安全保障と自衛隊 ④核兵器の廃絶に向けて大切なことは何か？ ・軍縮問題、核兵器 ⑤平和な社会にするために何が一番重要か？ ・21世紀の世界情勢、病気や貧困、環境破壊など世界的な視野に立った問題 ⑥難民問題に対して日本が取り組めることは何か？ ・難民 ・国家を中心とする安全保障では対処しきれない事項 ⑦国際社会で日本が果たす役割を踏まえ、私は国際社会に対してどのような貢献ができるだろうか？ ・変化する国際情勢の中での我が国の役割や私ができる貢献 ⑧国連職員による講演 ★専門家の活用 【発表】中学生に紹介しよう ⑨国際社会における日本の役割はどうあるべきか？ ・単元のふりかえり、未来を見据えた我が国の役割

新聞記事を活用し、同郷で国際連合で活躍している人がいることを伝える。持続可能な国際社会の形成に貢献している同郷の先輩を知ることから、単元を導入する。

「核兵器の廃絶」と示すと、「高校生にできることはない、自分事ではない」となってしまうがち。そこで、実際に行動を起こしている高校生の活動を紹介し、その行動（募金、啓発用のレポート作成、SNSでの発信等）から自分なら何ができるか考えさせることで、国際社会が直面する問題に対して、自分が具体的に行動を起こしていくイメージをもたせる。

国際連合だけでなく、国際的な機構・組織、非政府組織（NGO）、企業などの取組も紹介し、互いに連携しながら協力していくことの大切さを伝える。

「自分が国連職員になったと仮定し、取り組んでいることを中学生に紹介しよう！」というパフォーマンス課題を提示。

これまで「日本人」として何ができるか考えてきた単元の学習をふりかえり、未来を見据え、日本としてどのようなことを大切にすべきだと考えるか、自分の考えをまとめる。

単元のこれまでの学習をふりかえり、生徒が耳にしたことがある「国際連合」や「SDGs」について改めて確認し、現在の国際社会における課題や変化する国際情勢の中での我が国の役割について理解を深めた上で、国連職員として活躍している同郷の先輩が活躍するエピソードを具体的に紹介して興味を高めてから、自分が国連職員になったらと仮定したパフォーマンス課題につなげた。

本時のねらい

- 変化する国際情勢の中での我が国の役割について理解を深め、国際平和の維持と安定、様々な国家間の未解決の問題の解決に向けてどんなことができるのか、自分の考えを明らかにする。

本時の展開

過程	学習内容	指導上の留意点
導入 5分	○国際社会で日本が果たす役割を踏まえ、私は国際社会に対してどのような貢献ができるだろうか？ ・単元におけるここまでの学習をふりかえる。	・戦後の外交と国際社会に求められる日本の役割の変化などを解説する。
展開 ① 20分	①国際社会には今、どのようなことが必要なのだろうか？ ・国際連合とSDGs 【グループワーク】 ・日本の様々な取組とSDGs 「これらの取組は、SDGsのどの目標達成につながる取組だろう？」 ・変化する国際情勢の中での我が国の役割 ②なぜ、東日本大震災の時に、世界各国の国や地域・団体は日本を支援してくれたのだろうか？ ・「これまで、日本が支援してきたから」という声を紹介する。 ③国際社会において、課題解決に取り組む人たちの紹介 ・同郷の先輩3人の活躍を紹介する。 ・国連動画『未来を作るのは私たちだ』を視聴する。	・なぜ、その目標につながるかと考えるのか、理由を説明し合わせる。 ・日本だからこそ、国際社会の中で担うことができる役割があることを伝える。 ・野田総理のメッセージ「世界のために最前線に立って汗を流した日本人がいたからこそ」を紹介する。
展開 ② 20分	課題提示 ○自分が国連職員になったと仮定し、取り組んでいることを中学生に紹介しよう！ ・国連の組織から、自分が国際社会に貢献したい機関を選ぶ。 ・取組を調べ、どんなことをしているのかわかりやすく記述する。	・各自が「国連職員になりきって」、「今、自分が取り組んでいること」を紹介するプレゼン資料をICT端末を使って作成させる。
まとめ 5分	○授業の内容のふりかえり ・自分が国際社会に対してどのように貢献できると考えるようになったのか、考えたことを記述する。	・国際社会を形成する一人として、主体性をもって国際問題を捉えられるようになっていることを価値づける。

中学校での学習も含め、これまで学習してきたことを確認する。

一つの取組が、複数の目標につながることも多い。意見交換させることを通して、世界が直面している課題の解決について考えを深めさせる。

東日本大震災のエピソードを示し、国際協力・関係構築の重要性を確認する。

対象を中学生に設定し、わかりやすい言葉に言い換えた説明を考えることで理解を深めさせた。加えて、プレゼンの中に、中学生に対して、できることからはじめよう、と促す内容を盛り込ませることで、国際社会の問題に対して主体的に関わりようとする態度の育成につなげる。